

## 第5回 町田市立学校の新たな学校づくりのあり方検討部会 議事要旨

開催日時	2020年11月24日(月) 18:34~21:00	
開催場所	町田市役所市庁舎 10階 10-2~5会議室	
部会員 (出席者)	委員	山口勝己、末吉泰子、鴨河貴史、相澤真理、関根美咲、岩切洋一、高橋博幸
	職員	(学校教育部) 北澤学校教育部長、小池指導室長、田中教育総務課長、是安教育総務課担当課長、浅沼施設課長、田村学務課長、有田保健給食課長、林教育センター所長、辻教育センター担当課長、鈴木教育総務課総務係担当係長、菅野施設課主任 (財務部) 武井営繕課長 (庶務：教育総務課総務係) 中野主任、京増主任 (策定支援：株式会社豊建築事務所) 田中秀朗、奥澤信之
審議内容	①個別施設機能の検討について(その2)(普通教室及び多目的スペース) ②個別施設機能の検討について(その3)(特別教室、特別支援教育)	

### ■議事要旨 (敬称略)

#### 1 開会

山口部会長 (開会宣言)

#### 2 第4回検討部会の振り返り

教育総務課 (資料1、2の説明)

山口部会長 資料1、2の内容に関してご質問、ご意見があれば伺いたい。検討スケジュールに関しては予備回を1回使って、第9回まで使うスケジュールに変更されたということで、これはよろしいか。

各委員 「異議なし」の発言あり。

山口部会長 論点整理の中身に関してはこの後議論するので、確認に止めてに進めさせていただく。

#### 3 個別施設機能の検討について(その2)(普通教室及び多目的スペース)

教育総務課 (資料3の説明)

山口部会長 まず議論の前に資料3の私の研究室で行ったアンケート調査で前回お示しできなかった追加部分を説明したい。ページ番号の6、7、8、9は前回説明した部分で、基本的に教員からの評価はオープンに対してはいいということと、音の問題に関しても引き戸を導入している小山中央であれば引き戸を閉めれば音は大きく問題にならないというようなことを前回ご説明させていただいた。

10ページ目、前回集計が間に合わなくて出していなかった部分で、基本的にオープンの利点として上の3つ。多様な学習形態の指導が展開できる、学年合同授業、学年集会などの学年の活動ができる、作業など多目的に活用できる、いわゆる授業で

活用できるという部分は高いというのは共通しているけれども、それ以外に下のその他の上の2つ。他のクラスの授業が見え、参考にしたり、助言したりできるというのと、教師間のコミュニケーションやチームワークが高まる、要するに広さ以外の利点、空間が連続して学年がまとまっていることからくる利点もかなりの先生が感じているというのも、これは広さでは対応できない利点であるのかなと思った。

最後は鶴川第一小学校の教室の拡張の意見で、狭いので、広げてほしいとは要望しているけれども、ただ、1メートルを超えるような要望はあまりない。1メートル以内という要望が多いことが確認されている。

これは前回の積み残しの部分なので、今日、ある程度結論を出していきたい。まず、普通教室部分とオープンスペースと連動している話で、そちらの部分に関して前回以降いろいろ調整していただいて、このようにバランスを取った案としてまとめていただいた。こちらに関してご意見をお願いしたい。こちらは全員にご意見をお願いしたい。まず、口火を切って誰かいただければ、いかがか。

末吉委員

オープンスペースについて、町田第三小学校の教員に少しだけ聞いたところ、とにかく三小は狭いので広い教室が欲しいという意見があった。アンケート調査の結果からは、オープンスペースがある学校の先生たちはみんなオープンスペースが欲しいと言っているというデータを、どんなふうに解釈するかというところがかなり大事なポイントになってくるのかなとは思っている。使っていない先生たちは要らないとおっしゃっているようだけれども、この数字の扱い方をどんなふうに扱うかというのが非常に重要だなと思っている。

使っている先生たちがいいと思っているものをこの書き方でいいのかなというのは一つ気になる点。もう少し積極的な書き方がいいのかなという気もするけれども、何せ学校で指導しているわけではないので、その辺の具体的なところは先生たちが一番分かるのかなという気がしている。書き方については、一つ、そこが私の気になっている点。

鴨河委員

前回、欠席した関係もあって、補足のご説明を今いただいたの意見という形になる。オープンスペースの配置、広さ、あと普通教室との兼ね合いで、基本的には普通教室を優先する話よりはオープンスペースを優先する話に持って行っていただいたほうが僕はいいと思っている。

なぜかという、これからの学校の配置、あり方を検討する部会なので、今までのご意見というのは正直あまり参考にはしていないというのが僕の個人的な意見。今後、これから問題に対してどういう解決策がある建物、教室のあり方ということを考えると、もう既に町田市内で3校、オープンスペースを取り入れているメリットが出ている学校があるわけだから、多目的スペース、オープンスペースの広さを優先するという方向で考えてもいいんじゃないかなと思っている。

なぜかという、ここに既に先生方のメリットも書かれてあるとおりで、普通教室の議論をする時間よりもオープンスペースを議論する時間のほうが恐らく今後有効になるんじゃないかなと思ったのが、前回、皆さんがお考えいただいた話から受けた印象。

相澤委員

先ほど末吉委員から、今オープンスペースを使っていらっしゃる先生方のアンケートを受けて、オープンスペースのメリットが高いんじゃないかということで、もちろん私もそう思っている。ただし、どうしても町田第一小学校の現状を受けて、あの狭い中に普通教室も広いものを造る、オープンスペースも造るとなると、かなり難しいのではないかなと思う。ですが、広さがあれば、もともと土地があればオープンスペースは本当に造っていただきたい、これは強い思い。視察に行っても思った。

先ほど資料3のオープンスペースのメリットで①の部分、②の学年としてのまとめ、それから学習形態を考えると便利というのは、今現在、先生方が廊下に出て、新しい先生方に学年主任の先生がお話をされたりというところは本当に目にしているところなので、オープンスペースは本当に造ってほしい、あってほしいと強く思う。

一方で、教室の狭さをご覧になられて実感されたと思うけれども、教室の広さも大切。後ほど資料4でまたまとめの文言のところが出てくると思うけれども、どちらにでも取れるという言い方はちょっと言葉に語弊があるのですが、適切なというか、本当にいい文言で書かれているので、基本的な考え方を優先しながら、どちらも造っていただければ理想かなと考えている。

関根委員

私も同じ意見で、オープンスペースは必要だと思う。様々なシーンを想像しても、それから山口部会長がまとめてくださった利点の部分、問題点の部分、全てのシーンが本当に目に浮かんでいる。小学校においては必要なものだと思う。ただし、町一さんとかいろんな場合もあるので、可能な限り広い面積で教室を確保した上で整備するという形で表記するのがよろしいかと思う。

具体的な数字については、私は、この一番適当な、思ったよりも多くの面積を取っていただいてとてもありがたく思っている。

高橋委員

前日もオープンスペースはいいという話もさせていただいた。息子が今高校生で、息子の小学校を見たとき、オープンスペースだった。ちょうど学年の指導の授業参観に行った時に、子どもたちがオープンスペースに学年でいて、そこで指導されている姿を見て、こういう共通のことについて話が通っているんだなと、学年でできているんだなと。小学校も3クラスだったけれども、そこでうまくできていたので、オープンスペースはいいなという気持ちでした。

町田市内の3校を見た場合に、音の問題もあるけれども、ちゃんと壁があれば、引き戸であれば音が漏れないということもあるので、オープンスペースがあればいいかなと。ただ、前回の議論でもあったように、やはり教室が狭いのにオープンスペースを無理に造るというのではなくて、教室の広さをきっちり確保した上で、立地条件が伴えばオープンスペースがあってもいいのかなと思った。なので、資料4に書いている基本的な考え方で進められていいのではないかなと思っている。教室の広さを確保した上でオープンスペースがあればベストかなと思っている。

山口部会長

岩切委員がまだいらっしゃらないところではあるけれども、こちらに関して、市の方々でもしご意見などがあれば。

施設課

この資料を作るに当たり、前回の普通教室の大きさ、理想的には11m掛ける8mなど、いろんな意見をいただいて検討させていただいた。やはり町田市の敷地の現

状に照らし合わせて、あと今、必要な教室数や、1つの大きさを大きくしていくと敷地に収まるのかというシミュレーション等をしてみたけれども、かなりぎりぎりのところと、収まらない場所も出てきた。

そういった上で、余りにも大き過ぎる理想を書いてしまうと、現実には可能とすることが難しくなるので、現実ラインを示すにはどうしたらいいのか、またそれすらもかなわない場所も出てくる可能性があるので、そういった意味を含めまして、こういった2段書きにさせていただいた。

また、収納スペースとオープンスペースの関係で、無理やりオープンスペースを造るんだというのを先に出してしまって、例えば普通教室を8メートル掛け8メートル、オープンスペースが2メートルしかないという敷地では造る意味があるのかとか、そこまで検討して、現実的に可能なのはこういった線じゃないかということで提案させていただいた。

山口部会長  
教育総務課

ほかの方はいかがか。私の意見は先ほどのアンケートで表れている。

オープンスペースについて、前半のほうでオープンを原則という書き方がいいというご意見もあった。相澤委員とか関根委員はバランスが取れている、実際の現実もあるからということで、これで良いというご意見だった。そこだけご意見が割れているかと思っている。オープンを原則とするという方がよいのか、順番を変えるかどうかだけ確認していただけたらと思う。

山口部会長

その点に関して私の意見としては、これからのことを考えていくと、クラスを広げても、結局学級の活動が展開するだけで、ほかのことに発展がなかなかしないのではないかと。学年単位でいろいろなことに取り組んだり、学校全体で取り組んでいる学校を見ると、可能性があるかなと。

学校全体でいろいろなことに取り組むというのは大変なことではあるけれども、その可能性があるかなという気はしている。学級単位だと、結局、個々の先生が頑張る、それもすごく大事だけれども、なかなかそれ以上の教育活動に発展していかないのではないかなという感じがしている。私個人としてはやはりオープンを原則とするという書き方にさせていただければと考えている。

教育総務課

もとの文案は前回の議論の経過を踏まえているので、修正するか、そのままか、相澤委員と関根委員、高橋委員に確認をいただいて。お二人が原則逆転させたほうが良いと前半にあったので、大事なポイントなので確認いただきたい。

山口部会長

人数的にはオープンを優先したほうが良いという方のほうが若干多い。オープンを造れば、確かに教室は64平米にとどめて、その分をオープンに回すということがあり得る形だとは思う。まず、3校を見てもオープンの部分等で収納の面積等はカバーすれば、教室拡張部分の面積をオープンのほうで補ったりはできるので、64プラスオープンという形を優先しても私はいいのかなと思うがいかがか。

末吉委員

先ほど施設課のお話の中で、それすら無理な場合があるとおっしゃっていただけれども、それは何が無理になる可能性があるということか、9掛ける11か、その話をされる後におっしゃっていたので、どれが無理になるということかお聞きしたい。

施設課

先ほど言ったのは、町田第一中学校を例に出させてもらおうと、町田第一中学校は、

当初普通教室は8m掛け9mの大きさを計画して設計に入った。実際敷地に当てはめて必要な教室数、諸室を並べてみるとどうしても収まらない。その結果、8m掛ける8.75という数字で最終的には大きさが決まった。

町田第一中学校は中学校としては敷地面積がかなり小さいほうで1.5ヘクタール、中学校としてはぎりぎりじゃないかという面積で、校舎が並ぶ幅によって何教室収まるかというのも大体決まってくるので、そうするとやりたくてもできない。学年で階が違いうように造るかとか、そういうところまで検討しなければいけないということがあったので、収まらなくなるケースも出てくるということをご認識いただきたいとお伝えした。

鴨河委員

今のご意見を踏まえた上での話だけれども、今後、普通教室は必要か。

教育総務課

前回の議論の経過のときに、岩切委員からお話があった。岩切委員はもともとオンラインの学校がこれからできるかもしれないと初回におっしゃっていて、逆に学校はなくなるのではないかという議論があった。

その一方で、学校の今の役割を考えたときに、社会性とか、人間関係づくりという役割は残る。学校は、普通教室の中で残っていくのは多様な学習形態という中では、特に協働的学習もしくはグループ学習みたいなのは残っていったらいい、そのときに必要な広さはなんだろうかというところの議論が前回あったので、その前提で今議論が進んでいるという状況。なので、「教室は要らなくなるかも」というところの議論は1度消化して、整理をさせていただいている。

鴨河委員

オープンスペースを普通教室に転化してフレキシブルに使えるような造りができるのかどうかというのを聞きたかった。要するに、8掛け8、8掛け9が自由に動かせるような、ふだんは普通教室で使って、年によってはオープンスペースで使えるような建てつけとか、そういうのが物理的にできるのかどうかというの、今の話を聞いて思ったことではある。

私は町田第一中学校のPTAで、日々工事の進捗を見ているけれど、すごく立派な校舎ができ上がる。あれだけ広くてでっかい学校でも狭いと捉えてしまうのであれば、よっぽどなんだろうなとは現実目で見え思う。

そんな中でもPTA室を造っていただけるということもありがたくは思っているけれども、8.75というのは前にも聞いていたので、だから、逆に言えば、壁で区切って使う普通教室であれば、さっきの間仕切りとか技術面の部分で普通教室としても使うこともできるし、オープンスペースとしても使うことができるような造りでもできるのであれば、融通が利いて効率的で機能的な造りになっていったらいい、20年後の学校のあり方検討会をやる上では、そういった意見もあっていいのかなと今思っている。

施設課

鴨河委員の今のご意見に対して、今後、学校を造っていく際には構造的に必要な柱とかはりはなくならないけれども、基本的に校内の壁については将来的には壊せるような造りということを目指して、必ずしもそこが絶対に教室、必ず特別教室という考え方ではなく、将来、何にでも展開できるように内部については改修できる壁を造るようにということで計画を進めている。

山口部会長 20年以上、30年ぐらいたつと大規模改修を大体行って、その時点でその頃の機能に合ったものに変えるということに多分なっていくと思うので、今までは30、40年ぐらいで建て替えたけれども、これからは80年ぐらいなので、途中かなり大規模な改修というのが行われていくとは思う。

教室と教室の間をすぐに可動で外して、学年全体をワンルームにするというタイプが30年前、40年前にあったけれども、実際にはあまりそういう使われ方をされないということと、可動の壁で仕切ると音とか、ふだんの環境が悪い。やっぱり問題は大きいので、今のところクラスごとにある程度はきちんと仕切った壁を造るのがいいのではないかとは思う。

施設課長 20年ぐらい先の夢を語るというのは非常に大事だと思う。それは本当にありがたい話だけれども、もう一つの話としては、今回答申をいただいた後に、かなり早い時期から着手する学校もあると思う。地域に入ってお話を始めてということになると、3年後ぐらいから設計が始まって、新しい学校づくりというのが始まってくると思うので、ある程度の目先の話と先の話というところでスパンを考えていただけるとありがたい。

山口部会長 今のところは両論併記的な、オープンを造れる場合には造るけれども、教室を広げるとというのが先に書いてあるタイプで、学校ごとにある程度どちらを選択してもいいみたいな形ではある。それをまず、ある程度条件が許せばオープンを計画することにするという書き方にするのはいかがかということ。やっぱり市としての方針として造ればオープンを造っていくという形で記述させていただければと思うが、よろしいか。

各委員 「異議なし」の発言あり。

山口部会長 ご意見が出なかったが、中学校に関しては教室拡張でかなり思い切って広げていただいている感じはする。前回11メートルという話はあったけれども、それに近い8m掛ける10.5mというかなり思い切った、全国的にはかなり広い教室になっているので、その点に関してはさらにこれ以上といっても現実的になかなか実現不可能になってしまうと思う。これに対してはご異論がなかったので、これでよろしいか。

各委員 「異議なし」の発言あり。

山口部会長 それでは、多目的ホールの数と面積に関してご意見があればお願いしたい。基本的に、中学校では3か所、学年単位で活動できるということで体育館と武道場、もう一つ多目的ホールという形で書かれている。今のところ上がっている面積は、1学年が入るスペースにはちょっと狭いように感じている。この辺に関してご意見は何か。

関根委員 ここが一番、私は思い入れがあるところで、配置を絡めてお話しさせていただくと、学校開放棟と学校棟を分けると考えた場合に、体育館は学校開放のほうに入る。一番私がいいかなと思うのが、体育館を重層式にして1階の半分を、体育館の面積の半分を多目的ホールにさせていただいたらすごく理想。地域の方も集まる場所だし、あとの半分をパーキングにして防災倉庫なんかも置けるし、そういった防災関係に考えても理想じゃないかと思っている。

あと、ここに記載してある普通教室2.5はやっぱり狭いかなと思う。

関根委員のお考えとして、広さは体育館の半分ぐらいという想定か。

今申し上げたとおり半分ぐらいあればいいかなと思っている。その根拠になる事例をお話したい。中学校で様々な活動や取組をやっていて、各学年が入るもの、学年全体を集めていろんなことをやっている。想像しながらお聞きいただきたい。まず、キャリア教育の講師による講演を聞く場合がよくある。そのときは椅子を並べてお話を聞く形になる。短い時間のときは体育座りといった形もある。

ビジネスマナー教室、これは職場体験の前にやるもの。講師の方のお話を聞いた上で、その場で実践練習をする。椅子に座ったり、立ったり、どちら側からか座ったり、ジェスチャーを交えたり、動くこともある。

あと、移動式プラネタリウムの授業を入れていて、教室1個分ぐらいの大きさのドームをまず立てて、これはいつも体育館でやっている。体育座りでレクチャーを受けてから中に入る。なので、全体的には体育館の半分ぐらいは使っている。

あと、伝統文化の授業で食育として地域の5名ぐらいの方々においでいただいて、金井地区の野菜とか伝統料理とかお節料理を見せていただいて、説明を受けた後に、地元で取れる野菜とかを実際に見せながら、みんなが手に取りながら学習している。最後に作ってくださった伝統料理を少しずついただいて、そのときは椅子に座った状態で聞いて、1人ずつ盛り分けた料理をその場でいただきながら地域の方々との交流を持ったりしている。これもやっぱり体育館の半分ぐらいは欲しい。

あと、今準備を進めているもので、町田市市の文化財係とのコラボ企画。ICTを活用して町田の歴史に触れようというもので、今年度、子どもたち1人1人にタブレットが行き渡る。それをどう活用していこうかというところの取組で、町田市の子どもは自分の住んでいるところの歴史を語れない。そういうことを勉強する機会も本当に少ない。教科書にも出てくるけれど、自由民権運動のときには結構さらっと進んでしまって、娘なんか聞いても、町田の歴史を友達に自慢しようと思っても、なかなか具体的なことを学校で教わらなかったと。

そこで、考古資料室と自由民権資料館とゆくのき学園の民俗資料展示室をつないでオンラインを使ったライブ授業をやることになっている。各学芸員の方々にお話を聞いたり、質問を受けてもらったりして、実際に手に取って触れられるような簡易式土器とかいろいろある。それもリアルに持ってきていただいて、リアルとリモート両方の部分からやろうと思っている。それも大きなスクリーンで1学年全体でやろうと思っている、それが理想なので、この場合も広い面積が必要かと。

あと、浴衣着つけ教室をやっている。15名ぐらいの方々に来ていただいて、1年生の男女全員に浴衣を着つけていただいている。今は場所がないので1クラスずつ5回回してやったりしているけれども、これも着つけとか畳み方とか所作までやるので、あとげたを履いて歩いたりする体験もあるので、ある程度の広さが必要。

今具体的に駆け足で言ってきたが、あと学年単位のプレゼン発表もある。なので、それぐらいの広さが必要になる。

あと、多目的ホールの設えについて、どの場合においても講師の方が前に立たれる。なので、みんなの前で発表したりするときもそうだけれども、可動式のミニステ

ージみたいなものがあればとても便利。もちろんICT環境は整えていただきたいなど。リクエストばかりだが、ちょっと理想を申し上げた。

相澤委員

小学校のことでお話しさせていただきたい。今、キャリア教育の話が出たけれども、本校も先週の木曜日、10団体、12人の方にお越しいたいてキャリア教育を行った。

その際に6年生が、まず、あの重いランチルームの机を廊下に運び、そのランチルームの机を出すスペースがなくて天板同士を合わせて廊下に出し、椅子は横に重ねられるだけ重ねて並べて、3クラスの児童、約100人が、ゲストティーチャーさんに前におかけいただいて、距離をある程度取って、そこからあのランチルームの後方部分ぎりぎりだった。

横は多少1列空けられるかなという状態で、このコロナ禍の中、大変な思いでキャリア教育をした。もちろん窓は全開放だったけれども、それを考えると、この先ひょっとしたらもう1クラス増えるという学年が幾つかあるので、町田一小は本当にあと何年後かにはパンクしそう。あのランチルームの中に学年全体が入ることはちょっと難しいのかなと感じた。

そこで思ったことが、まず奥行き。奥行きがぎりぎりだとしても、ひょっとしたら縦横の長さが同じぐらいの長さだったら、もうちょっと列を2列とかにしないで3列、4列座れるのであれば何とか賄えるのかなと。ところが、教室棟にああいう多目的なホールがあったりとなると、どう考えても構造上、あそこの部屋だけを広くするのは難しい。

それを考えたときに、教室棟は教室棟、多目的ホールとか特別教室だけは別棟を建てて、先ほど関根委員がおっしゃったような学校開放とは別の動線も確保できるので、広さのお話からちょっと逸脱してしまうかもしれないけれども、そういう棟もまず別にし、もう少し広いスペースを取らないと、この先、本当はかなり活動がいろいろ難しくなってくるなと感じた。

高橋委員

お二方が言っていたように、やはり2教室だとちょっと狭いかな、2.5も狭いかなと思う。うちは4クラス、5クラスの学年なので、ちょっと2教室には入れ切れないかなと。学年集会をやるにしてもやはり体育館の半分ぐらいは欲しいなど。キャリア教育を金井中さんがやっておられたが、本校でも同じようなこともしているし、そういった場合にやはり広いホールが欲しいなと思っている。

山口部会長

面積的には2もしくは2.5というのは狭くて難しいというのと、あと、補足で位置的な話。いわゆる教室周りではなくて、ある程度、地域開放などができるようにしたいということと、あと、プロポーションを取る意味でも、3.5とか4教室とかなったときに細長いスペースでは使いにくいので、できるだけ整形な形がいいというご意見などもあったということで、その辺を加味して書き換えていただければと思う。よろしいか。

各委員

「異議なし」の発言あり。

#### 4 個別施設機能の検討について（その3）（特別教室、特別支援教育）



- 教育総務課 (資料6の説明)
- 山口部会長 今回の資料6アンケート等の説明について何かご質問などは、よろしいか。
- 各委員 「なし」の発言あり。
- 豊建築事務所 (資料7の説明)
- 山口部会長 今ご説明していただいた内容に基づいて議論を進めていきたい。まずは特別教室について。1部屋1部屋の細かい点までご意見を伺うと時間がないので、実際、それぞれの特別教室の細かい点に関しては、設計のときに対応していくことになる。
- ここで一番重要なのは、部屋の大きさや数というのが後ろのほうの表にあるので、そちらを中心にご意見をいただければと思う。室構成に関しては12、13ページで、どちらかという部屋の数に関しては少し抑え気味で検討した結果だけでも、案として提示させていただいている。
- 普通教室は大きくしたので、特別教室に関してはある程度現実的に部屋の数を算定して、家庭科室とか被服、調理を分けずに1室にして、技術室も金工、木工を分けずに1室にしている。ただ、その代わりに部屋の広さを広くしていて、その中のレイアウトによって2つの活動がきちんとできるということを考えているということになっている。ご意見をお願いしたい。
- 鴨河委員 大卒特別なことはないけれども、1点、小山中学校の反省から考えると、音楽室が置かれている階数というか、小山中学校は地上階が3階で、音楽の教室で演奏しているときには音がうるさいという苦情があった。配置する上では1階に置くのではなくて、3階とか上層階に音楽室を置くほうがいいのかなというのはずっと印象には残っている。
- 山口部会長 基本的なことをきちんと守って設計をするということだと思うので、各計画事例に一応言葉として書かれている。きちんと設計のときに確認しておくということかなと思う。ラーニングセンターと学校ギャラリーの話、それ以外の一般の特別教室の数と広さに関してはいかがか。
- 施設課長 今回、パソコン教室がここに入っていない。今、ICT教育環境の整備を町田でも進めていて、GIGAスクール構想で1人1台環境を近々実現することになる。今後はパソコン教室を造らず、それぞれの教室で使えるようにという考え方とした。
- 山口部会長 今回の点で確認だけでも、小学校はほかの自治体等でもパソコン教室はなくなっているが、中学校ではノートパソコンをまだしっかり並べておいて、授業の中でもパソコンの授業があるので整備しているところも多いけれども、その辺、新しい中学校に関してはどのような対応を想定されているのか。
- 教育センター所長 中学校のパソコン教室の取捨の部分だが、今現在、GIGAスクール構想で端末整備を進めている。将来的には中学校もパソコン教室は不要になるであろうと今は考えている。
- ただ、今、部会長からのお話があったとおり、中学校には技術課程等でウィンドウズパソコンをさわるという授業も今までは多かったというところがあるので、小学校ほどすぐになくせないのかなというところも今想定して計画を進めている状況であるとご認識いただければと思う。

高橋委員

私はもともと技術科の教員で、パソコンが1台あればパソコンルームは要りません。なので、町田市教育プランを見ると、1人1台ということですので、教室に40台置けるキャビネットがあればそれで十分。これ以上パソコンルームは必要ないと考えている。

それから、技術室の金工、木工も、私が過去3校で教員をしていたときに金工室、木工室があったのは1校だけ。結局、学習指導要領が変わり、教科を教える時間が1、2年生は技術が週1時間、家庭科が1時間、これは2年生も一緒。

私は昭和の終わりにも教員をしていたけれども、そのときは男女別修で技術が3時間あった。そのほかに選択教科というのがあって4時間、5時間という具合だったので、そのときはエンジンの組立てとか、旋盤を使った金属加工もしていたので、金工、木工は必要だった。

今は週1時間で、3年生に至っては週に0.5時間。その中でやるに当たっては、金工、木工も男女共修になり、旋盤はほとんど使わない。木工も丸のこ盤とか帯のこ盤も使わないので、もう1教室で十分。40人が使えるということで2教室分あれば十分なので、1教室で2教室分の広さがあれば十分であると考えている。

また、家庭科も同様に授業時数がかなり減り、2教室分あって被服と調理ができれば十分ではないかと思っているので、この計画どおりで私は十分でないかなと。2教室分の広さが確保できれば作業もしやすいですので、いいかなと思っている。

岩切委員

途中からの参加となり申し訳なく思っている。

まず、各教室のことについて申し上げますと、音楽室の楽器庫とか図工の作品の保管スペースは本当にありがたいこと。本校の場合、割と広いスペースがあるので、両方とも確保できているけれども、前任校などの場合、これが十分ではなくて、造った作品をどこに置くのかとか、置いておいてもそれが汚れてしまったとか、そういうことがあったので、こういうスペースを造っていただくのは非常にうれしいことだと思っている。

それから、私は社会科専門で、ラーニングセンターについて申し上げますと、社会科が特に図書室等を使った調べ学習が多くなる。一般的に担任は図書室に行って調べてきなさいという指示を出すことが多い。ところが、子どもたちは、どういうふうに調べていいか実は分からない。例えば、伝統工芸について調べなさいというと、図書室に行って伝統という本を全部調べてくる。それは伝統工芸だけじゃなくて、何でもいから伝統とついていたらみんな調べてくるとか、意外と教員が図書室の使い方を指導していないということがある。

こういうラーニングスペースで周りに指導できる部屋が設置されているというのは、自分の専門から見ると非常にうれしいことだと思っている。分からなければすぐ先生のところに聞きに行けるという形なので、教室があり、図書室まで行く時間、図書室で本を読むというのは別なんだけど、調べ学習のためにわざわざ行くということを考えると、こういうスペースがあるのは非常にうれしい。

教室数の算定についてちょっと申し上げたい。12ページの⑩で、24クラスあると、3年生以上で専科を設定するとすると、24クラスで、1学年4クラス、それが3、

4、5、6ということになると4掛ける4、16、2時間使うとなると32時間。

そうなってくると、今、週5日制ということを見ると、マックスでも30時間しか取れないので、2教室あるのは非常にうれしいことではあるけれども、ただ、トレードオフの関係で果たして大丈夫なのかなという思いもしている。建蔽率とか、それから高さ制限がある中で、ここで音楽室とか図工室を2つとうたって本当に大丈夫なのかと。学校現場の人間とすると、2教室あるのは非常にありがたいけれども、果たして2と書いていいのかどうなのかというのは別の意味から心配している。

例えば、1年生、2年生は専科ではなくて担任が音楽等も指導している。その場合には教室で指導することになるので、一定程度の音が出るのはお互いの許容範囲となっていることがある

例えば4学級の場合、専科を4、5、6年生として、非常勤講師等が3年生対応となることもあると思うけれども、その場合、楽器等については空いている音楽室を使って指導しても、歌とかリズム指導などについては教室等でも十分指導できるかなと思っているところ。そう考えると、果たして音楽室等を2としていいのか。ありがたいことではあるけれども、今後の学校を造る上で本当に大丈夫なのかなという懸念はある。

教育総務課

資料1の資料でスケジュールを提案しているが、全体面積を積み上げる回を設けている。第8回で、標準的な構成、室数及び面積、全体を積み上げた結果を確認するパートを設けていて、トレードオフの関係は、その回で整理させていただきたいと考えている。

山口部会長

一応授業のコマ数と教室の利用率を考えて、やっぱり2教室あったほうがということで算定したが、確かに全体を積み上げた段階でどこか減らすということ考えたときに、こちらは一つの候補として考えておきたいと思う。

ラーニングセンターに関しても2教室もしくは2.5教室ぐらいというのが現状だけれども、それよりも1教室以上広げて、特にラーニングルームという独立した学習室を設けたというのが1つのポイントだと思う。

それでは、特別支援教室に関してご意見をお願いしたい。こちらに関しては、ご質問でも結構なので、挙手をお願いできれば。

末吉委員

私の意見だけれども、子どもたちが学校に来ることが第一優先。来られないようにならないようにすること、学級で生活ができなくてもとにかく学校に来られるように、そこからスタートなので、それさえあれば大丈夫だと思う。配置等というよりは子どもたちが学校に来やすいようにという文言があればとてもいいかなと思う。子どもたちが生活しやすいようにとか、とにかく子どもたちのことを思って記載していただければなと思う。

高橋委員

本校は特別支援教室の情緒の拠点校だけれども、中学生は思春期真っただ中で、情緒の週1回か2回、1時間ずつ行くのにも、今の中学生はやっぱり異性とか友達の目を気にしながら行っているので、そこら辺も配慮したほうがいいのかなと。

あと、私、今の学校では特別支援学級はないけれども、副校長でいた中学校では特別支援固定級の学級があって、通いやすい位置に配置されていたので、今の末吉委

員の意見に賛成。なので、子どもが通いやすいように配慮した計画のほうがいいのかなと思った。

相澤委員

本校の場合は知的と情緒の障がいのお子さんがいらっしゃるけれど、すごく通常級と活発に交流をしている。でも、それは物理的なことではなくて理念をうたうべきであって、例えば1年生の入ってきた子たちがひまわり学級さんと交流する場合に、まず、ひまわりのお子さんは先生が伴って来るけれども、帰りは1人でひまわり学級に帰ろうねと言って、すごく自立を目的とした教育をされている。

そういうときに遠いひまわり学級でも自分たちで帰れたときの達成感というか、子どもたちはすごくそこで満足感を得ている。その話を保護者の方にすると、1人で今日は戻れたねとすごく喜ばれるので、まずは通いやすい位置に配置することが大事なのではないかと感じている。

岩切委員

本校は知的障がい学級、それから情緒学級ともに交流活動は活発に行っている。給食は一緒に食べたりとか、一緒に授業を受ける事ができるものは一緒に行っているし、教員が意図的にそういう活動は十分実施していると自負している。

そういう意味で、まず、子どもたちが通いやすい位置に配置して、交流活動を積極的に行うということがいいのではないかと思う。

末吉委員

私が国家試験を受けたのはもう何十年も前になるけれども、その頃と恐らくノーマライゼーションの考え方や根本的な理念や思想というのは、福祉に対しては変わっていない。

ただ、特別支援学級であろうと、通常級であろうと子どもたちが学校に来るのが最大にして最も重要なこと。学校に来て子どもたちが勉強したり、遊んだり、そういう時間を過ごすのは何も特別支援学級の子だけではない。

すべての子どもたちが学校に来やすいように、学校で授業を受けやすいように、そういう環境をつくっていくのが私たち大人の仕事だと思う。どの子たちも学校に来て、どの子たちも勉強がしやすい、どの子たちも遊びやすい中で、多様化、多様化と言われているけれども、いろんなタイプの子もたちと交流が持てるようにというのは、すごく真っ当というか当たり前のことなので、そういう思いを文言にしてもらいたい。

教育総務課

子どもが通学しやすい、そこに来やすいという文言を入れる方向で検討をさせていただきたいと思うが、認識が違うようだったら言っていたら言っていたらいいと思う。

末吉委員

いえ、何も間違っていないかなと思う。あくまでもすべての子どもたちが学校に来やすいようにということで。

山口部会長

この文言も含めて検討いただくということで、改めて報告いただくということにさせていただきたい。

ほかに、規模等に関してもかなり人数が学校によって違うので、全体として何教室分という書き方はしていない。その辺は計画のときに対応することになるかと思う。1つの単位として0.5教室とか、プレイルーム1教室ということだけでも、これも人数によって、人数が多いところでは面積は大きくできる書き方となっている。

トイレ等に関しても適宜というのは、基本的には特別支援学級は造るという前提

で適宜という書き方になっている。川崎の事例とか、かなり大きいものもあるけれども、必要に応じてこういう面積配分することも可能ということになっている。

岩切委員

2つ支援学級を預かっている身としてお話しすると、資料7の14ページの27スライドの児童・生徒数に合わせて学級数を整備するというのが、ちょっと大丈夫なのかなという思いがしている。

というのが、8人で1学級ということで非常に変動幅が大きい。例えば、本校は今、知的障がい学級の来年の児童数が25人、それと情緒障がい学級が9人、両方とも1人減ってしまうと1学級減になる。通常級の場合だと一定程度読めるけれども、特別支援学級の場合は読めなくなる中で、果たして児童・生徒数に合わせてという書き方が大丈夫なのかなというのを一つ、まず懸念してある。

それと、その下のほうに移動間仕切りを設け、いわゆるパーティション、これだけはどうしても無理かなと思っているところ。本校も昨年、特に情緒障がい学級が荒れてしまったときに、もともと2教室があり、高学年に1教室、中低学年に1教室、間をパーティションで区切っていたけれども、お互いの声が気になる、お互いが何をしているかが非常に気になって、いくら指導者、教員が指導しても間を開けてしまう、向こうが気になるとそれで授業が成り立たなくなってしまう。

そういうこともあって、本校は昨年、給食の配膳室が使われていないので、そこをプレイルームにしたり、児童会室を潰してそこを特別支援教室に設定した。子どもたちが学びに集中するという意味で移動式間仕切りというのは、特に情緒障がい学級には不向きな構造だと思っている。

今後、どの程度の特別支援学級数が想定できるか、今現在の各学校における教室数等を含めながらになると思うけれども、児童・生徒数に合わせて教室数を考えるとしても、その調整として移動の間仕切りを使うというのはかなり現実から外れているなという思いがどうしてもしてある。

末吉委員

個人的に、一保護者というよりは社会福祉士として一言。何のために特別支援学級を配置するのかというのを一つ考えていただきたい。非常に過敏な子どもたちが恐らく多いはず。このパーティションでどのくらい防音ができるのかはちょっと分かりかねるけれども、恐らく同じ1人の子でも、周りに集う子によってそのときに出てくる特性の強弱が大きく変わるというのがこの子たちの特徴。あれっ、去年はあんな感じだったのに今年は落ち着いたねということも十分あり得る。

今、岩切委員がおっしゃっているのは、触ることも含めて、とにかくその子どもたちが集中して何かに没頭できる時間を設けられる部屋でなければ特別支援の教室として意味をなさないということではないだろうかと思う。

教育総務課

論点の整理として、予想しにくい特別支援学級の子ども数ということで、そのときの就学の状況に必ずしも対応するけれども、バッファが要ること自体は問題認識としては持っている。

資料7の15ページ目の29スライド目、これは完全に固定壁で、小教室が6教室ぐらいある想定がある。先ほどの話も可動式間仕切りで児童・生徒数の変動に対応するというわけではなく、就学の状況及び児童・生徒数の変動を考慮した室数を整備

するという言い方だとしたら、実情に合うのではないかというご議論だったように思うが、そのように整理してよいか、確認を部会長にお願いしたい。

山口部会長

児童・生徒数に合わせてというのをどういうふうに見込むかということだけでも、結局、そののところでいかに余裕を見るかということ。きちんと変動に対応できるという文言を入れて、すぐに足りなくならないように、すぐに使わなくても、もしぎりぎりであれば1教室多めに造っておくとか、そういうことで対応していくということしかないのかなと思う。

岩切委員

今、教育総務課がおっしゃったとおり。実際に本校の教員に聞きましたところ、教室が余れば個別指導がしやすくなる。今あるクラスを統合することはほとんど考えられないと。今分けているクラスを統合することは考えられなくても、クールダウンをしたりとか、状況によっては分けたりしなきゃいけないから、正直な話、1人に1教室が欲しいと思うのが本音。最大総定数プラスアルファがあれば、絶対に無駄なスペースにはならないということもあるので、今のようなまとめ方をいただければ非常に納得できるかなとは思っている。

山口部会長

変動に対応した、もしくはある程度余裕を持ったという言葉を入れて、すぐには使わない部屋となったとしても、その辺はほかに活用できるということなので、1教室分ぐらいはある程度余裕を見て造っていければ。

岩切委員

別件で、1つだけこれを申し上げておきたいなと思ったのが、19ページのスライドの上の37の職員室で、拠点校の場合、巡回指導の教員の職員の人数分の個人の机、拠点校以外は職員室に会議スペース、ぜひこれだけは載っていただきたいというのが私の意見。

前任区は北区だったけれども、特別支援教室の先進モデルということで、大分前からこういうのを進めていた。その中で、職員室をサポートルームの職員室と通常級の職員室を分けている学校と一緒にしている学校があった。分けている学校は、協力関係もできなければ、または専門知識を活用できないということがあった。私は2校、拠点校にいたけれども、何があろうが絶対に職員室は一緒にするという方針の下で、多少狭くなくてもいいと。場合によっては校長のスペースがなくてもいい、とにかく一緒にしてくれとやったところ、その後の児童の交流も、教員の中でのお互いの専門知識の活用とか、細かい困り感の共有とかがあった。

他区の事例なんかを聞いてみても、分けているところは結構ある。それこそサポートルームは毎回児童・生徒数が読めないのも、それを吸収するために別の部屋を設けているけれども、失敗事例をたくさん見ているので、このような形で同じスペースを共有するのはぜひここでうたっていただきたい。

山口部会長

この辺に関しては、この文言にも盛り込んであるけれども、しっかりと職員同士が交流していくようにしたいとは思っている。

関根委員

皆さんの学校は特別支援教室がある学校だと思う。金井中学校はない、設置されていない学校で、それでも今、グレーゾーンのお子さんが急増している。学校に行けない不登校生がどんどん増えていて、それで、学校では1つ教室を潰して支援室を造っている。今回、これは関係がないけれども、そういう場合は空き教室を利用して造

っていくべきなのか、それしかないということかと思う。支援の必要なお子さんはかなり人数がいて、ほかの学校でも、設置していない学校も、そういうふうな対応をしていると聞いている。

教育センター担当課長 今、全校に特別支援教室を設置する準備を進めていて、来年度が準備の最終年度。金井中学校さんに関しては、来年度、特別支援教室の巡回校として設置が開始される予定。今お話があったような形でサポートルームをご利用できるお子さんがいらっしゃれば、そちらを利用していただく形でご支援ができるのかなと思っている。また、不登校のお子さんに関して、適応指導教室等があるので、そちらをご案内するような形で、一緒に子どもの居場所づくりということで考えていきたいと考えている。

山口部会長 ほかはよろしいか。

施設課長 1点だけ。先ほど、多目的スペースのときに、2.0教室とか2.5教室という話をしていた。今、町一中を造っており、多目的スペースを充実させようということで、おおむね2.8教室ぐらいの規模感で造っている。この辺が目安になるのかと思う。

山口部会長 あとは、実際の椅子を入れた状況とか、その辺も少し検討していただければと思う。ほかはよろしいか。

各委員 「なし」の発言あり。

## 5.第6回検討部会開催概要

教育総務課 (第6回開催概要説明)